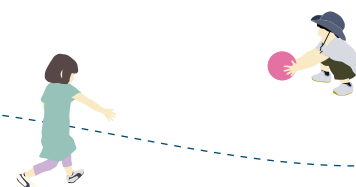


一本松がつなぐ思い



園舎に込められた思い

環境を最大限にいかした建物と自然との共生、無駄のない研ぎ澄まされた空間、そして光と影が織りなす美しいシルエット。かねてより安藤忠雄氏の建築へ憧憬の念を抱いていた理事長夫妻は、設計を

園庭を元気いっぱい走りまわる子どもたち



(玄関ホール)

(絵本コーナー)



(1歳児クラス)

木の温かみを感じられる園舎

お願いすることが夢だった。すばらしい自然環境、歴史ある街並み、未来まで続く子どもたちの園舎をつくりたいという思いに共感してもらったことができ、夢が現実となった。
「円い空を見て、丸い地球を感じ、平和でつながっていきけるように」「子どもたちに木の温もりを」「出会いの場となつてほしい」そんな安藤氏の願いがこめられた園舎。円形にしたことで、他のクラスの子どもたちの顔が見えるようになった。

て、手を振り合ったり、一緒に遊んだり、笑い声が響き合う空間がうまれた。

地域にねざした保育を

めざすのは、世代を超えて人が出会える場所。そしてセーフティネットの役割を果たすこと。
五風会は地域貢献支援員（スマイルサポーター）を配置して、育児、家庭、病気、介護などの相談にいつでも対応できるようにしている。また、主な取り組みとしておこ



直径30メートルの円形屋根と直径15メートルの吹き抜け。風が吹き、光があふれる空間。ここは、認定こども園 五風会。長い歴史に刻まれた思いと新園舎設立の軌跡をたどる。



Profile

社会福祉法人五風会 認定こども園 **五風会**
土金 新治 理事長・園長

0歳児から5歳児を受け入れる認定こども園。理事長の曾祖父がつくった回遊式庭園と茶室を合わせもつ「五風荘」の一面に、地域と社会への恩返しのため、母子寮や保育園を運営し、昭和27(1952)年、社会福祉法人となる。令和5(2023)年春には、設計・監理安藤忠雄建築研究所のもと、新しい園舎が完成した。

歴史ある五風会と新しい風

岸和田城のすぐ近く、自然豊かな環境で子どもたちは季節を感じながら楽しい日々を過ごしている。令和5(2023)年春に完成した新しい円形園舎は、青空がきれいに見えるウッドデッキ園庭や、桜の庭の自然の風景を見渡せるホール、陶芸ができる設備、野菜を育てられる農園が備わっている。園舎の中は木の温かみを感じられる造りで統一。江戸時代から守られてきた松の木は、子どもたちに生きる力の土台を身につけ羽ばたいていつてほしい。という思いをつないで、園庭の中央からいつも子どもたちを見守っている。

Interview

保育士の仕事の魅力は、子どもの心と身体の成長を間近で感じられること。日によって子どもたちの気分も体調も変化するため、毎日関わり方を考えながら、園に来てよかった！と思ってもらえるよう自身も楽しむことを心がけています。

Message

大学生活を楽しむ友人と、実習ばかりの自分を比べてしまうこともありましたが、でも、なりたい自分を信じて進んだおかげで、とても楽しく充実しています。高校卒業後は、進学や就職などの大きなターニングポイントがあり、将来に不安を抱くかもしれないけれど、今の自分の気持ちを大切にしていきたいです！

6年目の保育士さん



なっている園庭開放は、地域のお母さんたちのコミュニティになっている。なかには、不安を抱えているお母さんの姿もあり、もし悩んでいるようすがあれば、職員から積極的に声をかけ相談に乗ることで、問題解決につながっている。
今後は、在宅家庭へのアプローチや地域・学校との連携にも注力する。五風会のシンボルである一本松はこれから先も、子どもたち、地域の人々とともに歴史を刻んでいく。